

単元名

くらべてなるほど！けん玉のすてきを伝えたい！
「ほけんだより」を読みくらべよう（東京書籍 3年）

平成29年9月14日（木）
第3学年1組 男子18人 女子19人
計37人

本単元で育成する資質・能力

課題発見力

思考力・判断力・表現力

主体性

自己肯定感

1 単元について

【考え・基礎知識】

・二つの文章を読み比べ、書き手の工夫を読み取る。

【つながり】

・理由や根拠を明確にしなが二つの文章を評価する。

【応用・ひろがり】

・書く目的に応じて読み手の視点から効果を想像して表現の意図を考え、事柄の取り上げ方や説明の仕方を工夫しようとする態度を養う。

【単元観】

本単元の目標は、「二つのほけんだよりを読み比べ、それぞれの事柄の取り上げ方や説明の仕方の工夫を読み取ることができる。」である。重点指導事項は、「読むこと」のイ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」である。児童はこれまで、中心となる語や文を考えながら段落ごとの内容をとらえることを学習しているが、図版などが含まれた実生活のテキストを読み、そこから事実と意見との関係を考え、書き手の工夫を読み取ることは学習していない。そこで本単元では、筆者の意図によって事柄の取り上げ方や説明の仕方が異なることを理解してその違いを読み取ることにより、筆者の意図に応じた表現の工夫を読み取る力を身に付けることをねらいとした。本教材は、「ほけんだより」という学校生活における配付物を題材に取り上げており、実生活での活用につなげやすい教材である。目的と構成を同じくしながら、書き手の意図によってそれぞれ違う表現の工夫を読み比べることで、取り上げられている事柄と説明の仕方の違いに焦点化して考えるのに適している。

【児童観】

児童は、5月に学習した同系統の前単元である「自然のかくし絵」で、段落ごとの内容をとらえながら文章を読むことを学んでいる。単元末テストの平均点は97.5点で内容の中心となる語や文に着目して文章を読むことができていると言える。

しかし、学期末テスト（説明文）の平均点は75.7点であった。これは、初見の文章を読んで事柄の順序や大事な言葉を見つけながら全体の内容を読み取ることの経験不足や単元で習得した力を活用できていないことが理由ではないかと捉えている。

書くことについては、行事ごとに家庭学習で日記を書いている。

児童アンケートでは、「自分の考えを理由とともに書いている」と答えた児童は65%であり、目的や必要に応じて考えたことなどを理由を明確にして書く力が十分に身に付いていないという実態がある。また、図表や写真などの資料を収集し、構成や記述のために活用して書くことについては、国語科や総合的な学習の時間で取り組んできているが、文章と図表などの資料とが相互に密接な関連をもったものであることを意識するところまでには至っていない。

【指導観】

本単元では、書き手の工夫を考えながら二つの文章を読み比べ、事柄の取り上げ方や説明の仕方の工夫を読み取る力をつけていきたい。まず「課題の設定」の場面では、児童が学校生活で出会ってきたさまざまな「たより」を掲示することで、具体物を見ながら教材に対する興味を持たせていく。また、本学級で児童と担任が楽しみながら取り組んでいるけん玉のよさを全校児童に紹介する掲示物を出すに当たって、二つの文章からどちらを選ぶかを考えてほしいという投げかけを行い、本単元を学習するという学びの必然性をもたせる。

第一次では、教材文である朝食の大切さについて書かれた二つのほけんだよりを読み比べ、説明の仕方の工夫を読み取っていく。一つ目の文章では、朝ご飯の役割や機能を、二つ目の文章では、朝ご飯と体調不良の関係をとらえていくことで、それぞれが違った角度で書かれていることに気付くことができるようにする。また、自分だったらどちらの文章を読むと朝ご飯を食べようという気持ちになるかを考え、書かれている事柄や説明の仕方に関連付けながらその理由を明確に表現できるようにし、第二次へつなげる。

第二次では、けん玉と集中力の関係について書かれた文章を読み比べ、全校児童にその効果を知ってもらうためにはどちらの文章を選ぶかを考え、理由を明確にして「おすすめカード」を書く。第一次で学習したことを活かして中心となる語や文に線を引くことを通してちがいを比べながら読み、内容をとらえることができるようにする。また、「おすすめカード」を書く際に、選んだ理由を友達と交流することで、自分と同じ考えや違う考えを知り、一人一人の着眼点や感じ方に違いがあることに気付かせる。また、本単元では、文章だけでなく、図や表と文章の結びつきを考えながら書き手の工夫を読み取る力、文章と資料との関係を考え、目的に応じた表現の工夫を読み取ることも大切に指導していく。

単元後は本学習を社会科の「まちたんけん」や総合的な学習の時間の調べて分かったことを整理して新聞やリーフレットにまとめたり、事柄の取り上げ方や説明の仕方を工夫して調べたことを発表したりする表現活動へとつなげたい。

2 単元の目標

- 二つの文章を読み比べて、事柄の取り上げ方や説明の仕方の工夫を見つけようとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- ◎文章を読み比べて、図表と文章との関係を考えながら、書き手の工夫に着目して読むことができる。【読むこと イ】
- 二つの文章を読み比べて考えたことを発表し合い、一人一人の着眼点や感じ方について違いのあることに気づくことができる。【読むこと オ】
- それぞれの文章のどちらがよいと思うか、理由を明確にして書くことができる。【書くこと ウ】
- 語句の役割や語句相互の関係に注意し、文の構成に付いて理解することができる。【伝国 イ(キ)】

3 単元の評価規準

資質・能力 思考力・判断力・表現力	・二つの文章を読み比べ、図表と文章との関係に着目してその効果を考え、書かれている事柄や説明の仕方をもとに、書き手の工夫を考えたりしながら読み取り、自分の考えを理由を明確にして書いている。		
国語への 関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
・事柄の取り上げ方や説明の仕方の工夫を見つけるために、進んで二つの「ほげんだより」の文章を読み比べようとしている。	・二つの「ほげんだより」を読み比べて、図表と文章との関係を考えながら、書き手の工夫に着目して読んでいる。(イ) ・二つの文章を読み比べて考えたことを発表し合い、一人一人の着眼点や感じ方について違いのあることに気づいている。(オ)	・それぞれの文章のどちらがよいと思うか、理由を明確にして文章を書いている。(ウ)	・語句の役割や語句相互の関係に注意し、文の構成について理解することができる。イ(キ)

4 指導と評価の計画(国語 全7時間)

次	時	学 習 活 動	評 価	
			教科の評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
単元前		課題の設定 (聞き耳タイム「けん玉のお話」、身体測定「集中力のお話」)		
第一次	1	課題の設定 (国語科) ・学習のゴールイメージをもち、単元のめあてを設定するとともに学習計画を立てる。	【関】単元のゴールを理解し、見通しをもって学ぼうとしている (発言・ノート)	けん玉のよさを伝えるにはどっちの文章がよいのかな。読み比べるときに大切なことについて学ぼう!
	2	情報の収集 ・二つの文章の共通点と相違点について話し合う。	【読】二つの文章の共通点や相違点を考えながら文章に書かれていることを理解している。(発言・ノート)	二つの文章の同じところと違うところを考えるとそれぞれの工夫がわかるね。
	3	整理・分析 ・図表と文章を関連づけ、図表の効果を考え、説明の仕方の工夫を整理し、書き手の工夫を読み取る。	【読】図表と文章の関係に着目し、図表の効果を考えながら、文章に書かれている事柄を理解している。(発言・ノート)	関係に着目してその効果を考え、書かれている事柄や説明の仕方をもとに、書き手の工夫を読み取っている。 (発言・ノート)
	4	振り返り・課題の設定 ・本時までに学習した読み比べ方を振り返り、おすすめカード作りへの意欲をもつ。	【関】これまでの自己の学び方を振り返り、次時からの学習活動に対し、見通しをもって取り組もうとしている。 (発言・ノート)	比べ読みのポイントは、同じところと違うところを見つけて、何が、どのように書かれているか、それを伝えるためにどんな工夫をしているかを読み取ることだね。
第二次	5 本時	情報の収集・整理分析 ・二つの文章を読み比べ、説明の仕方の工夫を整理し、書き手の工夫を読み取る。	【読】既習事項を活用し、書かれている事柄や説明の仕方の違いから、説明の工夫を整理することができる。 (発言・ノート)	【思考力・判断力・表現力】 ・二つの文章を読み比べ、書かれている事柄や説明の仕方をもとに、書き手の工夫を読み取っている。(発言・ノート)
	6	まとめ・創造・表現 ・どちらかの文章を選び、選んだ理由をおすすめカードにまとめる。	【書】二つの文章のうち、効果があると思う方を選び、書かれている事柄や説明の仕方に関連づけて、その理由を明確にしている。(おすすめカード・発表)	Aは、有名なスポーツ選手を取り上げて説明しているね。Bは、実験結果をもとに説明しているね。ほげは、Bの方を選んだよ。だって……。
	7	振り返り ・おすすめカードを友達と読み合い、学習の振り返りをする。	【読】二つの文章を読み比べて考えたことを発表し合い、一人一人の着眼点や感じ方に違いがあることに気付いている。 (おすすめカード・発言)	二つの文章を読み比べるって楽しいな。他の教科の学習でも使えそうだね。
単元後		まとめ・創造・表現 (社会「店ではたらく人びとの仕事」) まとめ・創造・表現 (総合的な学習の時間「まちのすてきを見つけ隊」)		

5 本時の目標

・二つの文章を読み比べ、それぞれの説明の仕方の工夫を整理することができる。【読むこと イ】

6 本時の展開

	学習活動（時間）	◇指導上の留意点 ・予想される児童の反応 ◆主体的な学びを促す教師の手立て	評価規準（評価方法）
課題の設定	1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確認する。（5分）	◇前時までの学習を振り返り、単元を通した課題となる言語活動と結び付けて本時のめあてとつきたい力を確認する。 ◎二つの文章を読みくらべ、ちがいをを見つけることができる。せつめいのしかたのくふう	
情報の収集	2 それぞれの文章の説明の仕方の工夫について考える。（個人→グループ）（8分）	◇課題選択型でAとBどちらかの文章を読み、既習事項を活用しながら二つの説明の仕方の工夫について整理する。 ◆話合いの目的と型を電子黒板で提示する。 ◆グループで話し合った内容を短冊に書き、全体交流にいかせるようにする。	【読】 ・既習事項を活用し、書かれている事柄や説明の仕方の違いから説明の工夫を整理している。（発言・ノート）
整理・分析	3 全体で交流する。（12分）	◆AとBそれぞれの説明の仕方の工夫のよさを根拠を明確にしながら交流することを通して、多様な考えを共有し、認めることができるようにする。	
まとめ	4 まとめる。（12分）	◇発表の内容をつながげながら板書を行い、書き手の工夫を視覚的に捉えることができるようにする。 A（意図）けん玉と集中力の関係を写真やデータで説明し、けん玉のよさを理解させる。 （工夫）有名なスポーツ選手の実話とアンケートをもとに説明する。 （図表）スポーツ選手の写真や表を提示する。 B（意図）けん玉と脳への効果を科学的に説明し、けん玉のよさを理解させる。 （工夫）けん玉と集中力の関係について実験結果をもとに説明する。 （図表）実験結果の写真や図を提示する。	
振り返り	5 自己の学びを振り返る。（8分）	◇AとBそれぞれの説明の工夫のよさを理解した上で、音読を聞き合い、本時の学びを振り返る。 ・ぼくは、Aの文章の説明の仕方の工夫を一生懸命考えることができました。Aは写真やアンケートの表があって、わかりやすいと思いました。 ・わたしは、Bの文章の説明の仕方の工夫を考えました。AもBもどっちも工夫があって、いいなあと思いました。 ・わたしは、友達の発表を聞いてAの文章の説明の仕方の工夫がよくわかりました。	
		◇振り返りを交流し、本時の学びを資質・能力の視点で価値付け、次時につなげる。	

7 板書計画

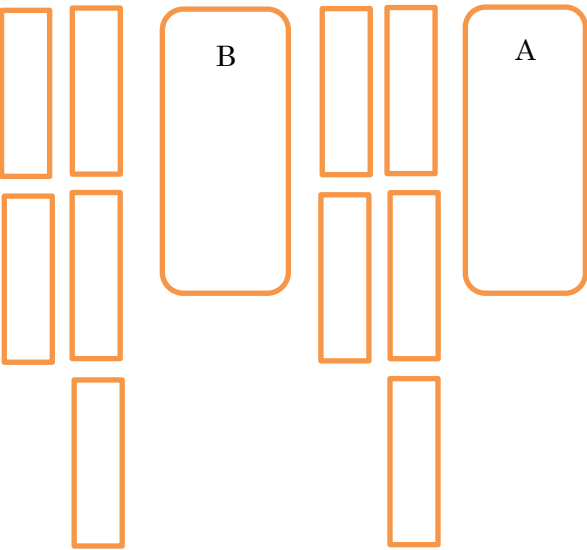
九月十四日（木）「ほけんだより」を読みくらべよう
めあて 二つの文章を読みくらべ、ちがいを
見つけることができる。

せつめいのくふう

A 有名な選手の写真
アンケート結果・表

B 実験結果の図

ふり返り



けん玉で集中力をアップさせよう！



みなさんは、けん玉が^{のう}脳に^{のう}あたえるえいきょうを知っていますか？

レスリングの吉田沙保里選手^{よしださおりせんしゅ}やフィギアスケートの羽生結弦選手^{はにゅうゆずるせんしゅ}、カープの菊池涼介選手^{きくちりょうすけせんしゅ}に共通^{きょうつう}していることはなんでしょう。



それは、どの選手もトレーニングにけん玉を取り入れていることです。



もっとも集中力をアップさせる技は「もしかめ」です。何回もつづけてできるように練習することで、集中力を高めることができます。

右下の表は、休けい時間にけん玉をしている3年1組のみなさんに2年生の時とくらべて高まった力について聞いたアンケートのけっかです。

これらの3つの力は、集中力と大きく関係があります。また、集中して学習できるようになったことで、前よりやる気が出たと感じている人もいました。

1	すらすら書く力
2	話を最後まで聞く力
3	宿題をさくさくする力

どんな力が高まったと感じたか

けん玉はすべてのスポーツに通じるものがあるそうです。友だちといっしょに1日5分からでもためしてみてもいいですか。くり返し練習すると必ず上手になりますよ。



けん玉遊びを通じて学んだ成功体験^{せいこうたいけん}は、脳の発達^{はったつ}をうながす意味でも大きな役割^{やくわり}をもつことにつながります。

けん玉で集中力をアップさせよう！



みなさんは、けん玉が脳にあたるえいきょうを知っていますか？

けん玉と集中力のかんけいをしらべるために右のようなじっけんを行うと、次のことがわかりました。

血液の流れから脳の動きをしらべると、できる技を練習している時は、血液がへって活動がおさえられています。これは、脳が集中している状態だそうです。

また「大ざら」や「もしかめ」などの技をねばりつよく練習することをつづけると、脳が集中することをおぼえ、けん玉をするときだけでなく、べん強したり、スポーツをしたりするときにも、集中のスイッチが入るようになるそうです。

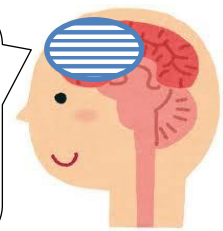
「ふりけん」や「世界一周」などのおずかしい技にチャレンジし、成功したときには、脳からやる気パワーが出るとも言われています。



できる技を練習しているときの実験のようす

できる技を練習する

何回もつづけてできるように練習する。
(集中モード)



けん玉をするときには、いろいろな技を組み合わせることがポイントですね。集中力や、やる気パワーをアップさせたいですね。



けん玉遊びを通じて学んだ成功体験は、脳の発達をうながす意味でも大きな役割をもつことにつながります。